

第 15 回衛星設計コンテスト最終審査会報告 — 日本天文学会賞の初の受賞チーム決定! —

日本天文学会が今年度から主催として加わることとなった衛星設計コンテストの最終審査会が去る 2007 年 10 月 28 日(日)に皇居近くの一橋記念講堂で開催されました(天文月報 2007 年 10 月号 554 頁と 555 頁でコンテストと最終審査会のご案内をしていますので、そちらもご参照下さい)。前日の台風 20 号による大雨と強風の気候とはうって変わって、台風一過の晴天、富士山も東京からよく見えました。衛星の「設計」または「アイデア」を競い、全国の大学院、大学、高等専門学校等の学生または高等学校の生徒さんから構成される、書類選考で選ばれたグループがこの日の最終審査会にのぞみました。28 件の応募作品の中から選ばれた、設計の部 1 件、アイデアの部 6 件、高校生が対象のジュニアの部 4 件の口頭発表や質疑応答が公開で行われました。緊張した面持ちの学生、生徒の皆さんでしたが、中々堂々としたわかりやすい発表が続きました。人工衛星を用いたいろいろと楽しいアイデアやおもしろい夢のような話もあり、午前 10 時半から午後 5 時半までの長時間でしたが、大変興味深く聞かせてもらえました。さらに、審査会の途中で、コンテスト経験者による講演(「理工連携で臨む超小型衛星による最先端地球科学」と題する東北大の高橋幸弘、吉田和哉両先生のご講演)や順調に進行している月探査衛星「かぐや」のご講演(JAXA の加藤 學先生)もあり、最新の話題も聞くことができました。

そして、いよいよ審査結果の発表。まず、主催団体の名前を冠した各賞の発表と授賞式が行われました。わが日本天文学会賞は、高知工業高等専門学校のチームのアイデアの部の作品である月面電波天文台「すぷりんぐはずかむ〜ん」に授与す



土佐理事長による日本天文学会賞の表彰状授与の様相 (日本宇宙フォーラム提供)

ることが審査委員会から発表され、土佐 誠天文学会理事長より表彰状とトロフィーが手渡されました。初の日本天文学会受賞作品となります。この作品は、地上や地球周回軌道上では観測が不可能な低周波における高感度の宇宙電波の観測を行うことを目的として、ロール状のアンテナ集合体を搭載したローバーを月の裏側に送るものです。このローバーでは、宇宙電波観測用のログスパイラルアンテナを展開し低周波天体を観測します。観測データは、地球-月系のラグランジュポイント (L2) を中心としたハロー軌道に中継衛星において、月面から常時地球局へデータを送信します。発表では、月にローバーを送るまでの様子がアニメーションで説明されるとともに、模型を用いたアンテナ展開のデモも行われ、中々興味深い発表で日本天文学会賞に相応しい作品でした。その他、各学会賞の発表の後、アイデア大賞や設計大賞の発表も行われましたが、詳細は、衛星設計コンテストのホームページをご参照下さい (<http://www.jsforum.or.jp/event/contest/index.html>)。

来年度も4月にはコンテストの応募が始まります。学生の皆さんは、是非コンテストへ挑んでみて下さい。宇宙ミッションのアイデアの応募でもいいですし、工学系の学生の方たちとも協力して衛星の設計まで手がけてみるのもおもしろいと思います。入賞作品が実際に打ち上げられた例もあります。若い方の宇宙への“夢”を是非語ってください。

日本天文学会では、コンテストの実行委員会、企画委員会、審査委員会に学会からメンバーを提供し、コンテストの運営に協力をしています。な

にかご要望等がありましたら、実行委員または企画委員にお寄せ下さい。今後とも衛星設計コンテストへのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

衛星設計コンテスト
 実行委員 土佐 誠
 郷田直輝
 企画委員 片岡 淳
 審査委員 常田佐久
 (文責 郷田直輝)



日本天文学会賞受賞作品となった高知工業高等専門学校の「すぶりんぐはずかむ〜ん」の模型。